

学校法人いわお学園

令和2年度(2020年度) 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 沿革

平成17年03月	学校法人いわお学園設置認可。 理容美容専門学校西日本ヘアメイクカレッジ設置認可。 同 理容師養成施設指定。 同 美容師養成施設指定。
平成17年04月	理容美容専門学校西日本ヘアメイクカレッジ開校。 (理容科定員 30名、美容科定員 50名)
平成18年04月	プロ理容師養成科開講。(定員 30名)
平成19年04月	あべの新校舎開校・事務局移転。 美容科定員変更。(定員 80名) プロ美容師養成科開講。(定員 50名)
平成20年04月	美容科定員変更。(定員 160名)
平成21年04月	理容科定員変更。(定員 90名) TONI&GUY カット ACADEMY開講。 NHC ネイル ACADEMY開講。
平成24年04月	TONI&GUY カラー ACADEMY開講。
平成26年04月	あべのマルシェ校舎開校。 美容科定員変更。(定員 240名) NHC アイラッシュ ACADEMY開講。
平成27年02月	職業実践専門課程認可。(理容科、美容科)
平成27年10月	天王寺校舎北館開校。
平成28年04月	理容科定員変更。(定員 140名) NHC レディースシェーブ&エステ ACADEMY開講。
平成29年04月	プロ理美容師養成科開講(定員 90名)
令和02年04月	プロスタイリスト科開講(定員 90名) プロ理容師養成科・プロ美容師養成科・プロ理美容師養成科を統合
令和03年04月	プロスタイリスト科を昼間課程に変更(今年度入学生より)

(2) 設置する学校の所在地

理容美容専門学校西日本ヘアメイクカレッジ

あべの本校舎

〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町2-1-2 あべのポンテ2F

あべのマルシェ校舎

〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町2-1-1-200

天王寺校舎 北館

〒543-0055 大阪市天王寺区悲田院町3-23

天王寺校舎 南館

〒543-0055 大阪市天王寺区悲田院町3-5

(3) 役員状況(令和3年5月1日現在)

役職	氏名	主な職業
理事長	高添 陽一	学校法人いわお学園理事長
理事	高添 裕子	会社役員
理事	平田 耕二	学校法人いわお学園教員
理事	高橋 建二	会社役員
理事	古川 繁浩	会社役員
理事	丸尾 匠司	理容師
監事	西脇 泰弘	税理士
監事	八代規素子	自営

(4) 評議員の状況(令和3年5月1日現在)

役職	氏名	主な職業
評議員	高添 陽一	学校法人いわお学園理事長
評議員	高添 裕子	会社役員
評議員	丸山 勇樹	学校法人いわお学園教員
評議員	森田 いづみ	学校法人いわお学園職員
評議員	平田 耕二	学校法人いわお学園教員
評議員	大迫 義文	理容師
評議員	蛸原 征志	理容師
評議員	岡本 貞治	理容師
評議員	丸尾 匠司	理容師
評議員	矢野 剛	学校法人いわお学園教員
評議員	下町 一久	学校法人いわお学園教員
評議員	高添航太郎	美容師
評議員	高添友梨子	美容師

(5) 教職員の状況(令和3年5月1日現在)

	専任	兼任	合計
校長	1名		1名
教員	30名	17名	47名
事務職員	9名		9名
合計	40名	17名	57名

(6) 生徒の状況(令和3年5月1日現在)

		定員	現員	充足率	前年	伸長率
理容科	1年	70名	45名	64.3%	45名	100.0%
	2年	70名	41名	58.6%	26名	157.7%
	計	140名	86名	61.4%	71名	121.1%
美容科	1年	120名	119名	99.2%	120名	99.2%
	2年	120名	108名	90.0%	70名	154.3%
	計	240名	227名	94.6%	190名	119.5%
プロ スタイリスト科	1年	30名	15名	50.0%	28名	53.6%
	2年	30名	20名	66.7%	18名	111.1%
	3年	30名	19名	63.3%	12名	158.3%
	計	90名	54名	60.0%	58名	93.1%
合計	1年	220名	179名	81.4%	193名	92.7%
	2年	220名	169名	76.8%	114名	148.2%
	3年	30名	19名	63.3%	12名	158.3%
	計	470名	367名	78.1%	319名	115.0%

(7) 土地及び建物の状況

	土地面積	建物面積	合計
あべの本校舎	634.81㎡	1,306.72㎡	1,941.53㎡
あべのマルシェ校舎	98.76㎡	270.57㎡	369.33㎡
天王寺校舎 北館	186.22㎡	413.35㎡	599.57㎡
天王寺校舎 南館	193.04㎡	301.97㎡	495.01㎡
敬愛ガーデン(寮)	267.76㎡	531.33㎡	799.09㎡
あべのポンテ506(寮)	27.89㎡	86.85㎡	114.74㎡
あべのポンテ706(寮)	27.89㎡	86.85㎡	114.74㎡
合計	1,436.37㎡	2,997.64㎡	4,434.01㎡

2. 事業の概要

(1) 教育活動

国家試験の結果、美容科は67名が受験し、61名が合格(合格率 91.0% 前年比 +0.2ポイント) 平成28年春期国家試験において合格率100%(受験者数76名)達成以来、95%台が2年続き、以降は、3年連続で91%程度の合格率に留まる結果となりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、休校やリモート授業の導入等、新たな対策を求められた一年であったことを思えば、前年並の数字はやむを得ないところもあるかとは思いますが、大阪府下の他校を見ても著名な学校は安定して95%以上の合格率を達成しているため、当校もやはり最低95%の合格率目標を達成すべく取組んでまいります。

令和3年度は初めて受験者数が100名を超える見込みでもあり、新型コロナウイルス感染拡大対策として、引続きリモート授業を併用しながら結果を追求してまいります。

特に国家試験直前期には、1年生をリモート授業とし、空いた教室で2年生をランク毎に分散させての少人数制指導により、効率的に全体の底上げを図り、国家試験に臨みたいと思います。

対して理容科は、28名が受験し、26名が合格(合格率 96.4% 前年比 +27.2ポイント)

昨年の69.2%という不本意な数字を取戻す結果を残すことができましたが、近6年間の合格率は、古い順に、85.7%→93.8%→82.4%→97.2%→69.2%→96.4%と交互に90%超と90%未満を繰返しており、90%超の年は全て副校長自らが担任を兼務した学年となっています。

幸い若い世代の教員も育ってきていることから、今年度は1年生、2年生ともに担任を若手教員に任せ、副校長には全体のコーディネートを任せる体制としました。

理容科についても毎年、安定して95%以上の合格率達成を目指してまいります。

新型コロナウイルス感染拡大対策として、初めてリモート授業を導入しました。

校内ではサーバーの大型化とセキュリティー強化、Wi-fi環境の整備等、生徒には希望者に限りタブレットの貸与支給等、総額で500万円を超える出費となりましたが、国の情報機器整備補助金の支給もあり、令和3年5月の状況を見ても、コロナの感染状況を見ながら、全面的にリモート授業に切替える等の対策にもつなげることができました。

併せてE-ラーニングのシステム開発にも取組み、試験的に運用を開始しています。

職業実践専門課程の認可を受け6年目を迎えました。

その成果を発表する場として、初年度より取組んでいるNHCフェスティバルも6回目を迎えました。コロナ禍にあっては、生徒がヘアメイクすることは叶わず、必然的に校友会サロン様にご協力いただく機会が失われ、結果的に高等学校ダンスチームのパフォーマンスをリモートで評価する形でイベントを継続しました。

令和3年度に関しても、本来の形式である現場で活躍する理美容師を講師に招き、ダンスパフォーマンスに合わせたヘアスタイルの具現化という実践的な機会を通じ、生徒の理美容師になりたいという想いを強めさせるとともに、高校生にも理美容師という職業の素晴らしさを実感してもらおう場として開催することは難しいとは思いますが、会場を借りた上で高等学校ダンスチームを招き、イベントを開催する予定としています。(状況によっては無観客開催。)

また、令和2年度に従前のプロ理容師養成科とプロ美容師養成科を統合し、開講したプロスタイリスト科については、受入れサロン様の要望もあり、令和3年度入学生より昼間課程としての開講と致します。

修学支援制度の施行により、就職希望の高校生の減少が予測される中ではありますが、皆無になるとは考えられず、通信課程併用により3年後の卒業時に国家資格を取得するとともに、集合訓練の場での反復練習と企業実習における実践的訓練の併用により、同時にスタイリストデビューできる人材の育成に取り組んでまいります。

(2) 就職支援

コロナ禍で就職ガイダンスの開催が中止になったり、理美容サロンの新卒採用の手控えがあったり等、就職活動において大きな制限を設けられた一年となりました。

その中で、当校は従前より関連企業が運営する「Beautytop-job」に加え、同じく関連企業が理美容サロンの予約受付サイトとして開発した「すまれせブル」を活用し、校友会サロンの情報を生徒が自宅で手軽に閲覧できる様に仕組みを整えました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のための休校後には、例年同様、卒業生全員に対する個別面談、面接練習等の個別指導をオンラインも活用しながら徹底して行い、昼間卒業生92名の内、就職希望者83名(理容科22名、美容科61名)全員が、卒業時までには内定をいただくことができました。(就職率 100%)

その中で校友会サロンに就職した者は、70名(76.1%)となり、今年度も3/4を超える卒業生を校友会サロンに就職させることができ、より強い絆を作り上げたいと願っております。

一方で理美容サロンに就職を希望しない生徒も9名(9.8%)とほぼ10人に1人となりました。当面は、居心地の良さから現在のアルバイトを継続する生徒が多数ですが、職業教育を謳う専門学校としては力不足を感じる結果となっています。就職活動に向けた平素の指導はもとより、実践教育に伴うサロンワーク等で業界の厳しさから敬遠してしまう生徒もおり、その改善が課題となっています。

コロナ禍が続く中ですが、令和3年度の就職活動は既に始まっており、生徒に貸与しているタブレットを活用した就職ガイダンスを開催しました。

今年度は、まだまだ手探りの状態でしたが、一度経験したことで必要なものや段取りもわかり、来年度以降も精度を高めながらオンライン形式の就職ガイダンスを継続する予定です。

(3) 広報活動

広報活動においても、コロナ禍で厳しい状況の中ではありましたが、毎年的一大イベントとして定着してきたNHCフェスティバルを生徒や校友会サロンによるヘアメイクは断念したものの、各高等学校様の協力を得て、ダンスパフォーマンスの映像審査のみを実施し、今年度以降に継続できる様、取組みました。

当然ながら、オープンキャンパスも3～5月の間、殆ど中止とせざるを得ず、動員数の面で大きく前年を下回りましたが、少人数での個別オープンキャンパスや、午前・午後の1日2回開催等で補填に努めた他、後半にはリモートでの学校説明を開催する等、高校生との接触機会の減少を手厚さで補う取組みに注力しました。

最終的な入学者数は、美容科は2年連続で定員達成となる120名(最終的に入学式当日に理容科への変更を申し出た者が1名いたため正式入学者数は119名 前年比 ▲1名 99.2%)、理容科は45名(前年と同数)とほぼ前年並みの入学者数を達成することができました。

またプロスタイリスト科は、定員30名に対して15名入学(前年比▲13名 53.6%)となり、今年度より昼間課程に変更した成果が出せず、大きく数字を落とす結果となりました。

高等教育の無償化(修学支援制度)が施行され、経済的に厳しい家庭であっても、進学へのハードルが大きく下がったために、就職希望者が減少したこと、コロナの影響で地方から大阪に一人で来ることへの不安(本人・保護者とも)が大きな要因と考えています。

ただ、アシスタント段階から自社の教育制度に沿った育成をしたいというサロン様も多く、就職希望者が全くいないというわけでもないため、以降はこれまで以上にサロン様と就職希望者のマッチングにも注力しながら、プロスタイリスト科入学生の確保に努めてまいります。

(4) 校友会

令和3年5月現在の校友会加盟サロン数は226社となりました。

令和2年度に続き令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で定期総会は中止となりましたが、今年度はリモートで就職ガイダンスを2年ぶりに開催致します。

その他、校友会主催の秋の定例講演会、親睦ゴルフコンペ、新年互礼会や学校主導のサロン体験を通じ、協力関係を維持し、共存共栄を目指しています。

前述の様に生徒募集のための広報活動の厳しさが予測される中、生徒募集の面で校友会サロンの協力を得られるか否かは結果を大きく左右するものにとらえています。

上記イベントを通じる中で、確固たる信頼関係を築き、サロン様からは生徒募集の面でも積極的に協力いただき、学校側からは預かった生徒を資格・技術・知識を養成した上で就職という形でお返しできる様な関係を築きたいと考えています。

(5) 教員の資質の向上

例年、夏休等の長期休暇期間を活用し、川西寿美子先生に依頼し、タイムリーな題目で教員研修をお願いしていますが、今年度は集合研修の開催は厳しいと判断し、実施を見送りました。

元上宮太子高等学校教頭の置田和夫先生に依頼している授業参観や、折に触れてに教員会議出席を通じた指導は引き続きお願いし、教員の資質の向上に取り組みました。

(6) 修学支援制度について

昨年4月に施行された修学支援制度に基づき、初年度に授業料減免及び給付奨学生となった者は、年間を通じて87名でした。

家計収入の違いにより、減額区分は3段階に分かれています。昨年5月1日現在の在籍生徒数327名に対する比は、27.3%と約3割を占めています。

この他にも希望はしたものの、家計収入・学業成績により不採用となった者も相当数おり、今後の生徒募集という意味合いでも、修学支援制度の対象校であるか否かは専門学校の行く末を左右する大きなキーであると感じています。

また、コロナ禍における緊急給付型奨学金もあり、学校毎に人数制限がある中、制限を超える応募があり、最終的には3回目の実施で有資格の希望者全員の行き渡りました。

令和3年度も、給付型・貸与型奨学金の希望者は数多くおり、改めて経済状況の厳しさを実感させられる中において、今後も情報収集を欠かさずことなく、必要とする生徒にタイムリーに情報を提供してまいる所存です。